

福祉まつり

ふれあい広場2018

学生がイチから
作り上げた
企画が満載!



臨床福祉学科を中心とする、 学生たちの活躍をレポートします。

桃太郎をベースにした オリジナル創作劇は大盛況。

9月1日(土)、当別町の総合保健センターゆとろにおいて当別町社会福祉協議会主催で開催された「福祉まつり ふれあい広場2018」に、臨床福祉学科を中心とするボランティアネットワークの学生41名がサポートスタッフとして参加しました。午前のプログラムでは、創作劇「当別版桃太郎～米太郎、鬼退治する?の巻～」を上演。学生はもちろん、ゆとろの職員や地域の小学生が練習の成果を発揮して熱演しました。貧困で人間から米を盗む鬼とそれを救いたい米太郎、町おこしのために進む温泉プロジェクトなど、テーマである地域福祉について考えさせられる作品となっており、観客にも好評でした。



飲食ブースは焼き鳥やフランクフルト、フライドポテトといった定番から、学生手作りのチヂミ、かき水、トロピカルジュースなどのメニューが豊富。早々に売り切れる店もあったほど。



物作りコーナーでは、学生スタッフがしっかりサポート。子どもたちが自分の手で完成できるよう、声はかけても見守る姿勢に感心する保護者もいました。

物作りからコーヒーの試飲まで、 多世代交流できる企画もいっぱい。

福祉まつりには、地域の子どもから高齢者まで、たくさんの人々が参加します。そうした幅広い年齢層の人たちに楽しんでもらうため、多世代交流部門を担当する学生たちが屋内外にいろいろなブースを設置。プラバンや小物入れ、コマを作る「物作りコーナー」をはじめ、子どもも大人も楽しめるオセロや魚つりを用意した「遊び場コーナー」、もれなくプレゼントがもらえるスタンプラリーなどを行いました。また、北海道医療大学カフェ同好会Bonheurによる試飲体験もあり、用意されたテーブルでおいしいコーヒーに舌鼓をうちながら、会話を楽しむ方々も多かったようです。

部門に分かれて会議をくり返し、事前準備にも追われましたが、学生たちにとっては自分の成長と達成感を味わえる、有意義な時間となったことでしょう。



カフェ同好会Bonheurのメンバーは、蒸らしや泡の広げ方、お湯を注ぐペースに心配りしながらコーヒーを淹れてくれました。自宅とは違う味わいに、来場者から質問を受ける一幕も。

歌にダンスにゲームと、 趣向を凝らしたステージ。

昼からの見どころは、屋外での多彩なステージ。「THE☆北海道医療大学」のよさこい演舞で、プログラムがスタートしました。その後、地域の「ゆうはな会」「ジャズダンスSKIP」による演舞や、「北海道医療大学アカペラ同好会chapel」によるコーラス。事前に参加者を募集した「～君はプレッシャーに打ち勝てるか!?～早口言葉チャレンジ!!」には、地元の高校生も参加して、緊張しながらお題を3回繰り返して、拍手を浴びていました。司会の学生スタッフの声

がけで、会場レポートも行われ、飲食部門がつくるチヂミも紹介されました。

そしてプログラムの終盤、会場をわかせたのが「当別音頭を守る会」「ひよっとこ踊り玉福」です。テーブル席の周りを、メンバーのみなさんが踊りながら回ります。その後ろには学生や地域の子どもたちが、見様見真似で行進していきます。ステージ発表の締めには再びよさこいメンバーが前方に集まり、みんな



顔合わせから本番までは約半月。キャストだけでなく、大道具や小道具、照明など各担当がしっかりと準備を進めて迎えた本番は見ごたえ十分。米太郎が生まれるシーンには赤ちゃんが登場し、観客を驚かせました。



THE☆北海道医療大学の演舞が始まると、屋外テーブルで食事を楽しんでいたみなさんも釘付けに。衣装の早変わりの際には、観客から歓声がありました。